



学校だより よつわ

教育目標「進んで学び 生き生きと活動する子ども」

柏崎市立田尻小学校 No. 3 (R6. 6. 27)

田尻小ホームページ : <https://www.kenet.ed.jp/tajiri/tayori/>



「抱きしめる」ほど たくましくなる

校長 ○○ ○○

学校の廊下を歩いていると、雑誌の表紙のサブタイトルが「子どもは、抱きしめるほど、たくましくなる」という言葉が目に入ってきました。自分の子育ての経験、そして、教員、校長として、多くの子どもたちとのかかわりから、納得のいく言葉でした。

子どもたちの脳はぐんぐん成長しています。残念ながら、20歳前半で成長は止まると言われています。特に、子どもたちの五感（五感）は研ぎ澄んでおり、大人に抱きしめられる時に、肌のぬくもり（皮膚の感覚）、匂い（臭覚）など多くの刺激がインプットされるようです。特に、3歳頃までの肌のふれあいは「愛着」形成につながるとよく言われます。この「愛着」が持てている子は、「絶対に愛されている自信」が持て、一生の支えになるそうです。今からでも、事あるごとに我が子をぎゅっと抱きしめていただきたいと思います。4月に行った町内子供会の後、下校する様子を見ていると、母親の腕にぎゅっとつかまり下校する高学年の男子がいました。お母さんもいつものことという感じで対応しており、普段からスキンシップができているとを感じる場面があり、ほっこりしました。

一般的に、小学校に入る節目で、親は「自立」を意識します。できないことがあると「おかあさん、やって」「どうするの?」と助けを求めてくる場面が出てきます。その時、ご自分ならどう対応すると思いますか。親がむやみに手を出せば、子どもの自主性は育ちませんが、「甘やかすこと」と「甘えさせること」は違うと言われます。

もう少し、具体的な場面を想定してみます。

○遊びに行った先で買ったソフトクリームを食べている途中で子どもがうっかりクリームを落としてしまった。

どうわが子に言いますか?

- A 「ばかね。不注意だからよ。」
- B 「きちんとまっすぐに持ちなさい」
- C 「ああ、残念だったね」
- D 「これくらい、たいしたことじゃないでしょ」

どの対応がよいのかは、記載しません。子どものことを思い、「自立」を急ぐあまり、「親離れ」になっていませんか。本当の自立は、愛された実感が支えると思うのです。仕事の関係で夜勤のある方、自営業で休みがとりづらい方、様々な家庭環境があり、子どもと関わる時間的な余裕のない方もおられるでしょう。わが子は二人とも自立していますが、振り返ると、娘とのスキンシップは添い寝をしながら、毎夜の絵本の読み聞かせが有効だったように思います。みなさんの家庭のスキンシップを改めて見つめ、継続してください。